

ナウマン通信



2022年
2月21日発行
第33号

大阪市立我孫子南中学校

冬季オリンピック閉幕



昨日、17日間にわたって行われた北京冬季オリンピックが終了しました。この大会には91カ国・地域から約2900選手が参加し、7競技、史上最多の109種目で熱戦が繰り広げられました。日本は冬季五輪史上最多の18のメダルを獲得しました。みんなはどの競技が印象に残っていますか？校長先生はカーリングが面白いなあと思い、よく見ていました。最初はルールも全くわからない状態でしたが、数ミリ単位の技の競い合い、複雑な戦術。知れば知るほど面白くなってきました。日本代表の口コ・ソラーレのチーム力にも感動しました。一投一投に互いを尊重し合う声掛け、常にポジティブな言動に勝っても負けても感動するシーンがたくさんありました。そんな中で特に感動したのがリザーブ（控え）選手の存在です。試合は同じ4人の選手が常に出ていました。万が一



選手に何かあれば代わりに出場する控え選手です。しかし彼女は試合が終わるたびに夜の11時から翌日の試合で使うストーン（選手が投げている丸い石）を一つずつ投げながらその特徴をつかみ、氷の状態も含めて4人の選手に伝えることに徹していました。そのような陰で支える人が今回の大会でもたくさんいたのだろうと改めて感動しました。口

コ・ソラーレもそのチーム力で銀メダルを獲得することができました。そして、そのリザーブ選手は冬季オリンピック史上最年長のメダリストに輝くことができたのでした。我孫子南中学校にも冬のスポーツで活躍している人がいます。以前にも紹介しましたが、3年生の宮本君はスキーのジャイアントスラロームという斜面に設置された旗門（きもん）と呼ばれるゲートの間を滑降し、ゴールを目指す競技で全国大会に出場しました。さらに中学生で選ばれることは珍しい国体にも大阪を代表して出場しました。3月にはジュニアオリンピックも控えています。みんなの周りにもこうして頑張っている人がいます。どうか応援してあげてください。こういう選手たちも競技を始めてきっかけは面白そうなど、小さなきっかけです。どうせ無理だとあきらめる前にやった方がいいなと思うことに挑戦してみてください。大きなことを成し遂げるには最初の一歩を踏み出すことが大切なのです。

